

(Ⅳ-36) 地域属性と来訪者属性に基づく観光活動箇所の分類法

山梨大学工学部土木環境工学科 正会員 西井 和夫
山梨大学工学部土木環境工学科 正会員 佐々木 邦明
山梨大学工学部土木環境工学科 正会員 西野 至
山梨大学工学部土木環境工学科 ○学生会員 河野 敬輝

1. 背景と目的

道路整備の発達に伴い、遠方の目的地でも短い時間で移動できるようになった現在、余暇時間の増大とライフスタイルの変化に伴って休日の観光目的の交通は年々増加する傾向にある。観光レクリエーション活動の単位が団体から家族・小グループへと変化してきていることなどにより国内観光旅行の交通機関としての自家用車の利用比率はますます高くなっている。これにより、主要観光地の周辺では交通集中、交通渋滞など、深刻な都市交通問題を招いている。このような現状は全国の観光地に共通するものであるが、問題への対応は遅れており、こうした地域では観光地としての魅力創出・環境改善を目的とする観光交通計画の策定が必要といえる¹⁾。

そこで、本研究では我が国の代表的観光都市の1つである京都において、これまでされている研究、各エリア（洛東、洛南、洛西、洛北、洛中）別のイメージ、観光客の行動分析等の結果を踏まえ、観光活動箇所単位での分類を行い、グループ別に観光客がどのように異なっているのか、また、どのような評価をされたグループへ観光客が訪れているのか等の分析を行う。

2. 調査の概要

本研究は1996年11月3日に行われた京都市休日交通調査のデータを用いて行った。調査項目を大きく分類すると、回答者の属性（来訪者属性）、旅行者の属性（同伴者、京都以外の立ち寄り先）、京都市内の移動（トリップチェーン）、観光客の意識（京都観光の魅力や休日交通施策へのニーズ等）の4項目に分けられる。また本研究の分析対象とする観光地は、あらかじめ概ね徒歩範囲を想定し複数の観光スポットを含む形で設定した26箇所と、調査後に設定した27箇所の計53の観光活動箇所を示すものとする。

3. 分析の方法

観光活動箇所の分類は、クラスター分析を用いて行った。まず調査データとは別に、市販のガイドブック等から観光地毎の地域属性データ（表—1）を作成した。調査データからは、来訪者属性として個人属性や京都市内の移動データから14の指標（表—2）を抽出した。それらの指標を基に、K-Means法、Ward法Complete法でそれぞれデンドログラムを作成し、その形状から最適な分類法およびグループ数を決定した。最終的なグループ分けは、地域属性によるクラスタリングと来訪者属性によるクラスタリングの結果をクロスして行い、どのような観光地にどのような来訪客が訪問しているかを分析することとした。

表—1 地域属性に関する変数

作成した変数	説明
飲食店数	観光地ゾーン内にある記事に紹介された飲食店の数
ショッピング可能な店数	観光地ゾーン内にある飲食店以外に記事に紹介された店の数
観光スポット数	観光地ゾーン内にある個々の観光スポットの数
神社・仏閣数	観光地ゾーン内にある個々の観光スポットのうち神社・仏閣が占める割合
総ページ数	観光地ゾーン内にある観光スポットに関する紹介記事の分量
平均ページ数	観光地ゾーン内にある観光スポットに関する紹介記事の分量の観光スポットあたりの平均
見どころの総数	観光スポット数内に存在する名所、名跡、に関する紹介記事の分量
見どころの平均	観光スポット数内に存在する名所、名跡、に関する紹介記事の分量の平均
平均評価値	観光地ゾーン内にある観光施設に対する評価値の平均
最大評価値	観光地ゾーン内にある観光スポットに対する評価値の最大値
最寄り駅までの距離	最寄り駅までの直線距離
周辺観光地までの距離	周辺観光地までの直線距離

キーワード：休日・観光交通

連絡先：山梨県甲府市武田4丁目3—11 山梨大学工学部土木環境工学科 西井研究室 TEL 055-220-8533

表-2 来訪者属性に関する変数

属性	作成した変数
性別	男性の割合
年齢	20代以下の人の割合, 60歳以上の人の割合
目的	買物等を含む観光の割合
居住地域	近畿以外から来訪した人の割合
来訪回数	初めて来訪した人の割合
旅行日程	日帰りした人の割合
移動手段	自家用車で来訪した人の割合
活動箇所数	1箇所の人の割合, 5箇所以上の人の割合
到着時刻	午前中に到着した人の割合
滞在時間	60分以内の人の割合
同伴者	1人で来訪した人の割合, 家族で来訪した人の割合

4. クラスタ分析の結果

デンドログラムの形状などから、来訪者属性については Ward 法で 7 グループ (A~G)、地域属性については Ward 法で 6 グループ (1~6) のグルーピングが妥当であると考えた。結果を表-3 に示す。多くの観光地を含むグループの例を挙げると以下ようになる。

グループ①—A：スポット数が多く来訪者属性が平均的な箇所

グループ③—A：地域属性が平均的で観光スポットの評価値が低い箇所

グループ④—A：地域属性が平均的で観光スポットの評価値が高い箇所

グループ①—E：スポット数が多く、初めて京都に来訪した人、多くの箇所を来訪する人が多い箇所

グループ④—E：地域属性が平均的で評価値が高く、初めて京都に来訪した人、多くの箇所を来訪する人が多い箇所

グループ⑥—E：見所が多く評価値が高く、初めて京都に来訪した人、多くの箇所を来訪する人が多い箇所

5. まとめ

本研究では活動箇所のグループ分けを行ってきた結果、各グループに特色を見出すことができた。発表の際には今回の分析を基に各活動箇所の入り込み客数、満足度を用いたグループ間の比較、洛東・洛西といったエリア毎の観光地の特徴の分析などの結果を示す。

参考文献

- 1) 室谷正裕：観光地の魅力度評価、運輸政策研究、Vol. 1 No. 1 1998 Summer

表-3 最終的に作成されたグループ

		地域属性によるグループ分け						計
		グループ① 【スポット数が多い】	グループ② 【繁華街】	グループ③ 【平均的で 評価値が低い】	グループ④ 【平均的で 評価値が高い】	グループ⑤ 【郊外】	グループ⑥ 【見所が多く 評価値が高い】	
来訪者属性によるグループ分け	グループA 【平均的】	大原・八瀬方面、東福寺周辺、嵯峨野方面、大徳寺周辺	四条烏丸周辺、北山駅・植物園周辺	伏見周辺、山科南部周辺、相国寺周辺、宝ヶ池周辺、出町柳・川端丸太町周辺、梅小路公園周辺	御所周辺、太秦周辺、円通寺周辺、上賀茂神社周辺、下鴨神社周辺、桂離宮周辺、伏見稲荷周辺		高雄方面、東寺周辺、花園周辺	22
	グループB 【1箇所・長時間】			鞍馬方面、淀周辺			醍醐寺周辺	2
	グループC 【老人・一人】			六波羅密寺周辺	城南宮周辺			2
	グループD 【近所・日帰り・車長時間】	大原野周辺		嵐山パークウェイ周辺	山科北部周辺			3
	グループE 【初めて・多くの箇所】	修学院・詩仙堂周辺、祇園周辺、哲学の道周辺、衣笠・御室周辺、清水寺周辺、嵐山周辺、京大・百万遍周辺、北野天満宮周辺、平安神宮周辺、今出川・堀川周辺	河原町・新京極周辺	等持院周辺、丹波口周辺	松尾大社周辺、銀閣寺周辺、金閣寺周辺、三十三間堂周辺、光悦寺周辺		二条城周辺、京都駅周辺	21
	グループF 【女性・グループ・宿泊】					途中越周辺	比叡山ドライブウェイ周辺	2
	グループG 【若者・車・短時間】					花背・広河原		1
	計	15	3	12	14	2	7	53